

令和4年度 第1回「京都市地域コミュニティ活性化推進審議会」摘録

日 時	令和4年8月19日（金）午後6時～午後8時
場 所	京都市役所分庁舎地下1階 区長会室
出席委員	15名（石本委員、宇野委員、沖委員、尾崎委員、城戸委員、黒田委員、志藤委員、杉原委員、玉村委員、長谷川委員、前田委員、村上委員、森本委員、山口委員、山本委員）
欠席委員	なし
傍 聴 者	1名
事 務 局	地域自治推進室：平賀、廣瀬、松浦、永田、中野 総合企画局総合政策室市民協働推進担当：荒木
議事次第	1 会長、副会長の選出 2 京都市地域コミュニティ活性化ビジョンについて 3 令和3年度 自治会・町内会アンケートの結果について 4 地域コミュニティに関する研究会報告書の概要について 5 自治会・町内会の支援の方向性と今後の審議会について 6 その他（事務連絡など）
会議資料	資料1 委員名簿 資料2 座席表 資料3 京都市地域コミュニティ活性化推進条例施行規則 資料4 京都市地域コミュニティ活性化ビジョン（冊子） 資料5 令和3年度自治会・町内会アンケートの結果について 資料6 地域コミュニティに関する研究会報告書の概要 資料7 自治会・町内会の支援の方向性と今後の審議会について 参考1 地域活動おうえんリーフレット 参考2 「新しい地域活動スタイル」事例集

【議事内容】

1. 会長、副会長の選出

<事務局>

各委員は、本年6月に本審議会の委員に御就任いただいております。本日が就任後初めての審議会の開催となる。事務局から委員の皆様を紹介させていただくので、名前を呼ばれたら各委員から1分程度で自己紹介をお願いしたい。

<各委員>

委員ごとに1分程度自己紹介。

<事務局>

「地域コミュニティ活性化推進条例施行規則」の第3条第2項により、「会長の委員は委員の互選により定め、副会長は委員のうちから会長が指名する」と規定しており、それに基づいて、まずは各委員の互選により、会長を選出していただくことになるが、いかがか。

<山本委員>

直接地域の中に入り関わり合いをもって活動されている大谷大学の志藤教授を推薦する。

<各委員>

委員全員拍手にて賛同。

<事務局>

それでは、志藤委員に会長をお願いしたい。志藤会長は、会長席に移動いただき、一言ご挨拶をお願いします。

<志藤会長>

各委員のそれぞれの知見や経験を含めて、様々な案を出しながら地域コミュニティづくりについて考え、意見を出しながら進めていきたいと考えているので、宜しく願います。

<事務局>

続いて、志藤会長から副会長の指名をお願いしたい。

<志藤会長>

副会長は前田委員をお願いしたいが、いかがか。

<各委員>

委員全員拍手にて賛同。

<前田副会長>

皆さんの意見が活発に出るよう、志藤会長と進めていけたらと考えているので、宜しく願います。

<事務局>

それでは、施行規則の第4条第2項の規定に基づき、以降の進行を志藤会長にお願いする。

2. 次期京都市地域コミュニティ活性化ビジョンについて

<志藤会長>

それでは次第に基づき議事を進行して参する。新委員も就任し初めての審議会となるため、改めてこれまでの経過や現状などの共通認識を持っておきたい。まず「京都市地域コミュニティ活性化ビジョンについて」、事務局より資料の説明をお願いする。

<事務局>

資料4「京都市地域コミュニティ活性化ビジョン(冊子)」について説明。

<志藤会長>

次の議題「令和3年度自治会・町内会アンケートの結果について」も引き続き事務局から説明をお願いしたい。その後まとめて質疑・応答等としたい。

3. 令和3年度自治会・町内会アンケートの結果について

<事務局>

資料5「令和3年度自治会・町内会アンケートの結果について」資料に沿って説明。

<志藤会長>

アンケートは今回6回目だが、前回より期間が開いている。実施間隔を変更した経緯は。

<事務局>

最初の3年間は毎年実施していたが、地域の負担の声を踏まえ、平成26年度以降は2年に1回となった。また令和2年度に実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響で地域活動も完全にストップしていたことも踏まえ、1年延期とし、今回令和3年度に実施した。

<玉村委員>

資料5-1のp5に「(12)自治会・町内会の代表者の属性について」報告があるが、世代に応じた男女比がどのようになっているのかを知りたい。代表者の属性調査も必要だと思うが、実際自治会を運営している構成員の属性についても分かる範囲で教えていただきたい。

＜事務局＞

資料5-2のp18に各設問の細かい調査結果を載せているので、年代別については、そこらを確認いただきたい。あくまで、今回は自治会長を対象にアンケートを実施したこともあり、構成員の属性は把握していない。

＜黒田委員＞

自治会・町内会以外の地域コミュニティに対するアプローチはどのようなものがあるのか。

＜事務局＞

文化市民局内にも市民活動に関わる部署もあるが、総合企画局が市民活動等をメインに担当している。今回については、主に我々担当する地縁に関する地域コミュニティについて調査を実施したのだが、地縁団体と志縁団体との連携なども重要な要素だと思うので、志縁団体に対するアプローチについても今後の審議会で示していくことができればと考えている。

＜村上委員＞

自治会・町内会によって世帯数などの規模が様々で、規模感によって課題も違ってくると思うのだが、自治会・町内会ごとの規模や年齢層などもアンケート結果から見えてきたのか。

＜事務局＞

例えば、世帯の規模が大きいほうが会長の負担感が大きいという傾向にあるということは見えてきている。負担感と言っても、若い世帯が多い地域と高齢世帯が多い地域とでは、また実情が異なってくると想定している。

＜村上委員＞

地域の課題などを考えていくにあたって、その点が一番知りたいと思った。今後のアンケートでは、もう少し細かい調査も必要なのではと感じた。

＜城戸委員＞

「自治会・町内会」と並列してしまうと、「自治会」と「町内会」を同じような組織だと考えてしまうのではないかと。「町内会」というのは本来50世帯ほどで、それを束ねて「自治会」というものがあるはずなのに、同じような位置づけで捉えてしまい、混乱してしまうのではないかと。

＜事務局＞

地域によって「自治会」「町内会」と呼称は様々であり、例えば50世帯ほどの町内の組織を「自治会」と呼ぶ地域があったり、学区単位のいわゆる「自治連合会」を「自治会」と呼ぶ地域もある。そのため限定せず、「自治会・町内会」と並列して明記している。京都市としては、使い分けとして単位町内会の連合体は「自治連合会」という呼び方をさせていただいているため、ご承知いただければと思う。なお、アンケートは自治連合会の会長に対し、自身の地域の単位町内会にアンケートの配布を依頼しているため、単位町内会の会長の手元にアンケートは渡っているはずである。

＜志藤会長＞

京都市内の自治組織も多様な形があるので、一律にアンケートを集計するものも難しいものとなっているのかもしれない。どうしたら京都市内の自治会・町内会の実情をつかんでいけるのかが、今後検討していかなくてはいけない点だろう。

また、地域の実情についても自治会・町内会だけで語れることでもないと思うので、加入率以外の指標の在り方も検討していかなくてはいけないのかもしれない。

ただ、コロナ禍においても、たくさんの会長に回答いただいております、京都市内の回答率の高さは自治力の高さを物語っているものだろう。

次に、今年の4月に総務省から発表された地域コミュニティに関する研究会報告書について、事務局からの報告に移りたいと思う。

4. 地域コミュニティに関する研究会報告書の概要について

＜事務局＞

資料「地域コミュニティに関する研究会報告書の概要」に沿って説明。

＜志藤会長＞

概要については説明いただいたが、総務省のホームページにも様々な観点からの報告が掲載されているので、また参考にご確認いただけたらと思う。時間も限られているので、次の議事に移りたいと思う。

5. 自治会・町内会の支援の方向性と今後の審議会について

＜事務局＞

資料7「自治会・町内会の支援の方向性と今後の審議会について」の資料に沿って説明。

＜志藤会長＞

関わりのある地域からの話だと、コロナ禍の影響で地域の活動がストップしてしまい、このまま再開し活動をするべきか、やめてしまうべきか、様々な議論が交錯している状況だと聞く。だが、町内会の活動が見えてこない、加入していることへの理解が進まない、結局活動を負担に思っている人から脱退してしまう。そういう面で「行事」というのは大事で、地域が「行事」を負担感なく、楽しく続けていけるよう、どうサポートしていくかが大事だと感じた。

一人一人が地域と繋がりやすい形でお互いに関係を築いていくためには、どうすればよいか、という考え方には感銘を受けた。課題は多いが、アンケートなどで地域の実態を継続的に把握していくことは一つの手立てだと思う。事務局から報告いただく内容は以上となるが、何か意見はあるか。

＜玉村委員＞

本来は「地域コミュニティの活性化」が主体なはずだが、大半が「自治会・町内会の活性化」にすり替わっているように思う。自治会・町内会ありきで大学などと連携するのではなく、学生が主体性をもって地域に入っていく枠組みを抜本的に考えていくことが必要なのではないかと感じた。様々な視点から地域の活性化に取り組む点は理解しているが、どうしても「自治会・町内会の活性化」に比重を置いてしまうのではないかと感じたので、そのような視点からも議論ができればと思う。

＜志藤会長＞

非常に重要な視点だと思う。ほかに何か意見のある委員はいるか。

＜宇野委員＞

自治会・町内会アンケートについてだが、自分が答える立場だと、字が細かくて回答するのも「面倒くさい」と感じてしまうのではないかと思ったので、1問1分で答えられるような質問を3問ぐらいにし、1年に数回細かく実施するなど工夫をすることで、実はもっと詳細な情報を集めることができるのではないかと感じた。

また、新たに町内会長になっても、引継ぎがしっかりとされない、具体的に何をしていたかなくてはいけないのか、本当にやらなくてはいけない行事なのかが分からず、外から来た住民だと、そもそも地藏盆の意味さえ分からなかったりする、手探りのままやらなくてはいけない。小規模の町内会も、統廃合すればよいという意見もあるが、そもそも統廃合を行ってもいいのかさえ分からないので、そのような課題をカバーできたらいいと感じた。

<志藤会長>

多くの町内会長が同じような課題を抱えていると思う。ほかに意見のある委員はいるか。

<村上委員>

町内会・自治会は、本当に必要なのだろうか。自治会・町内会へ加入することにメリットを感じないことが、若い世帯が加入しない理由なのではないだろうか。

この審議会では、「なぜ自治会・町内会は必要なのか」を一番知りたい。胸を張って「こういう理由だから自治会・町内会は必要だ」と伝えてあげられるようになりたいと思っている。

<志藤会長>

京都市は元学区という考え方を元に学区単位で活動しているが、小学校の統廃合も進み、学区＝小学校区ではなくなっているため、学区という考え方がピンとこない人も増えている。

ある地域では「学区とは何か」を説明するパンフレットなどを配布し、伝えていく努力はしているものの、「知ったところで何なのか」と、真意が伝わりづらい。いかに分かりやすく、どのように伝えていくかが大事で、検討していかなくてはいけないことだと思う。

<事務局>

防災や福祉の分野だと一番身近なコミュニティの単位である自治会・町内会を基礎としているのが事実としてある。今後の審議会で様々な意見をいただきながら、自治会・町内会が果たしている役割を見つめなおし、好事例を発信していくなど、伝統がある地域自治をサポートしていけないかと考えている。

前回までの審議会でも御議論頂き、完成したビジョンで示した現状や課題は、今回のアンケートで裏付けされる結果となり、総務省の報告書とかなり共通した結果がでてきている。京都だけに限らず、全国的に地域コミュニティが抱えている問題が浮き彫りになってきていると認識している。難しい課題はひしめいているが、少しでも現状が好転するためにどのようにすればいいのか、次回以降、ビジョンに示した方向性に沿って議論いただけたらと考えている。

<志藤会長>

先ほど話に挙がった「会長の引継ぎ」という点では、ポータルサイト内にて会計様式や名簿など各種様式を掲載し、ダウンロードできるようになっている。少ない担い手で負担も軽減しながら取り組めるような、解決方法につながる提案ができれば、持続可能な活動につながっていくのではないと思う。

＜前田副会長＞

自治会・町内会のデジタル化やICT化というのは、具体的に何の目的で、どういうイメージを持っているのか知りたい。昔は役が回ってきても、説明されなくても分かっている前提で役が引き継がれていたが、現状は変わって来ているので、考え方を変えていかなくてはいけない。自治会・町内会の活動は誰がやっているのか地域に見えるように活動していかなくてはならないと思うのだが、そのツールの一つとしてICT化があるのではないかと思う。

ただ、一方で地蔵盆などでも「実際活動しているから継承されていく」側面もあり、言葉でしか伝わりにくい部分もある。活動自体を「言わなくても伝わる」のではなく、「見えるようにする」ことが大事だと思う。

＜事務局＞

ICT化ありきで話を進めようとしているわけではないが、実際ICTを活用したいという声や、すでに活用している地域もあり、今が時代の過渡期なのかもしれない。御指摘いただいた観点からも今後議論いただければと思う。

＜志藤会長＞

ICT化の活用も、「どういう場面に、どういう風に、どういうものが使える可能性があるのか」は検討していけばいいのではないかと思う。活用方法の中身なども議論できたらいいと思う。

＜山本委員＞

このままでは町内会・自治会がなくなってしまうのではないかと危惧している。町内会の規模にもかなり差があり、それを一律で物事を進めていくということに限界があると思っている。町内会の統廃合を考えていかなくてはならないのではないかと考えている。

町内会への加入を呼びかけるだけでなく、まずは町内の活動に顔を出し、参加してもらうことから始めることが大事なのではないか。その中で「防災」の面が一番重要だと思っている。非常時に備え、できるだけ町内との繋がりを持てば、これからうまくのではないかと感じている。

＜志藤会長＞

今は曲がり角の局面に来ているのではないかと考えている。身近な地域のコミュニティづくりを基礎にしつつ、これまでの伝統や活動内容を踏まえながら、これからの未来に向けて考えいくことが、我々の使命だと思っているので、今後も活発に議論していけたらと思っている。

<事務局>

お忙しい中、熱心な議論いただき厚く御礼申し上げます。本日の審議会では委員に就任いただき初めての審議会ということで、事務局側から時間を取って説明させていただいたが、次回以降は委員からそれぞれの組織や地域で抱える課題や取組についても紹介いただきながら、より一層議論を深めてまいりたいと考えている。委員の皆様から頂戴したご意見を踏まえ、取組を前進させて参りたい。次回、第2回の審議会については本年冬頃を予定している。

以上